

三井住友F&L 蓄電池リサイクル参入

三井住友ファイナンス
&リース(SMFL)は、
電気自動車(EV)など
に使われるリチウムイオ
ンバッテリーのリサイク
ル事業を始める。リサイ
クルを手掛けるシンガポ
ール企業と連携し、20
24年度中に日本国内で
工場を建設する。年間1
万ト程度の処理を目指
す。

11日に子会社のSMFL
レンタルやテストアム
(シンガポール)と共同開
発に向けた覚書を交わし
た。事業の実現性などを
検討し、24年度中にも事
業主体となる共同出資会
社を設立する。まずはバ

ッテリーを砕いて粉状に
した「ブラックマス」の生
産工場の稼働を目指す。

主に国内のバッテリー
製造工場からリチウムな
どを含んだスクラップを
回収し、ブラックマスに
する。国内の製造工場全

体で年間約1万3千トの
スクラップを排出してお
り、建設する工場の処理
能力は年間1万トを想定
している。テストアの技
術を使えば、一般的な方

法よりも8割程度多くブ
ラックマスを生産できる

可能性がある。

当面ブラックマスはテ
スアムの海外工場に送
り、取り出したニッケル
などを再び日本に輸送す
る。ブラックマスからリ
チウムやニッケルを回収
する工場の建設も検討し
ている。回収した希少金
属は国内のバッテリーメ
ーカーに供給する。